



クローズアップ
CLOSE UP

南スーダン選手が合流

本市のふるさと納税寄付金を活用して5月に受け入れた南スーダンのサッカー選手2人が、ザスパクサツ群馬アカデミーU18に合流。FWのクリストファー選手とGKのマルコ選手は10月まで活動し、期間中は市内小中学校での交流事業にも参加予定です。



民間の力で公園利活用

6月3日、ソーラーエコ大胡ぐりーんふらわー牧場でBack to the EARTHを開催。これは事業者などから同場の利活用案を募るトライアル・サウンディングの一環で、今回は前橋赤城マイマイの会がテントサウナや裸足歩きを実施しました。提案は8月31日(木)まで受け付けています。



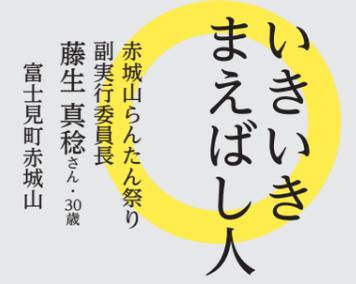
歯と口から健康づくり

6月11日に小中学生の歯と口の健康に関するポスターなどの作品展と、市歯科医師会などによる、歯と口の健康フェアを中央公民館で開催しました。会場では、歯と口の健康に関するクイズを実施し、全問正解者に歯ブラシをプレゼント。多くの親子連れでにぎわいました。

昨年8月に赤城大沼湖畔で開催した赤城山らんたん祭り。同実行委員会に若者の思考を取り入れたいという意向から、湖畔で飲食店を営む藤生さんが副実行委員長に抜てきされた。「小学生から店の手伝いをしている、観光客が年々減少する様子を見ていました。そのため、将来は地元で働かず、英語の先生を目指してオーストラリアへ留学しました」

「当日はたくさんの人でいっぱい、予想外の反響がありました。今年の祭りに生かして、プラスに転じていきたいです。らんたん祭りをきっかけに赤城山に興味を持つ人々が増えて、キャンプや、アクティビティをしに来てほしいし、ビジネスチャンスなどにつながる環境作りもしていきたいですね」と思いを語る藤生さん。赤城山の自然を活力に、藤生さんの挑戦は続く。

赤城山の自然を活力に



赤城山らんたん祭り
副実行委員長
藤生 真穂さん・30歳
富士見町赤城山



赤城山・黒檜山の霧氷



紅葉の覚満湖

スローシティの取り組みなどを紹介するこのコーナー。今回は雄大な自然が広がる赤城山に焦点を当てます。日本百名山の赤城山は、一年を通して楽しめます。春から秋にかけては登山、夏はレンゲツツジと新緑のカラーボレーション。また、大沼ではカヌーやカヤックなどの水上アクティビティ、秋には大沼を取り囲む美しい紅葉が山を彩り、冬は水上ワカサギ釣りやスノーアクティビティなどを楽しめます。普段、市街地から眺めるだけという人も多



【Vol.2】赤城山の魅力
☎ 観光政策課
☎ 027-257-0675



白樺牧場のレンゲツツジ



大沼でカヤック



スローシティの詳細はこちら

い赤城山は、直接訪れることでその魅力を存分に味わえます。まるで別世界に来たかのような自然美に出合えるのも赤城山の魅力です。鳥居峠の雲海や覚満湖の幻想的な霧景色、大沼のアイスバブルなど、自然が生み出す奇跡の絶景たち。条件が合わなければ見ることが難しいため、足しげく通う赤城山ファンが大勢います。また、冬の訪れを告げる霧氷は屈指の美しさ。この霧氷に魅せられて移住してきた人もいます。その時々で表情を変える赤城山の圧倒的な絶景は、きっと感動を与えてくれるはずです。

(関連記事は本紙4・5ページ)